

IRで探す勝負株／高利回り商品

別冊付録

日経マネー

9

2026

隠れAI・半導体
地味製造業
実は防衛関連



相続の基本&
最新ルール

法改正に備える

認知度高まれば爆上げ!

日経平均7万円からの

勝負株

強い株は IR＝情報発信 の中身で決まる!

資料をよく読めば有望株

馬淵磨理子さん

もったいないIR を狙え!

銀行預金
1.6%

国債
2.6%

社債
3~5%

「金利のある世界」でもっと増やせる

特選!

夏の高利回り商品

これから飛躍するビジネスに迫る！ 将来性のある企業特集

東ス・2901
株式会社
ウェルディッシュ

医療・福祉の国家課題を包括支援 シナジー加速×ガバナンス強化へ

大胆なM&A戦略で、倒産危機から驚異のV字回復を果たした老舗企業。33年3月期目標の売上高1000億円達成に向け、バトンを受けた野曽原新社長はどう導くのか。



取締役 副社長
安井 浩倫 氏

野曽原新社長のもとで ガバナンス強化を図る

「今は、次なる飛躍のために身を屈めている状態。高く飛び上がるだけの土台は整っている」。陽が差し込む明るい会議室の中、力強く語るのは株式会社ウェルディッシュの新社長・野曽原氏だ。社内向けストックオプション行使に関連するプロセス不備等について独立調査委員会に



よる調査を継続しているなかで、金融・医療分野に深い知見をもつ同氏が新たに舵を取った。
同社の前身は「水にボンと入れるだけでOK」というキャッチフレーズで知られる世界初の水出し麦茶パック「フジミネラル麦茶」やドライ加工食品で知られる石垣食品（1957年創業）。競合激化の影響で最終赤字が続いていたなか、前社長の小松氏が経営を引き継ぎ24年に商号変更がなされた。

読者の中には、小松新体制における「脅威のV字回復」を覚えている人も多いだろう。債務超過の解消や不採算部門の整理、M&Aによる営業力強化等によって、わずか半年の間に営業損益は約1億2000万円の赤字（24年3月期）から、約2億円の黒字（25年3月期）へと回復。長年100円台で推移していた株価は、一時997円をつけた。小松氏は前述の騒動の責任を重く受け止め代表取締役社長を退いたものの、引き続き代表権を有さない取締役として新社長を支えていく方針だ。

ウェルネス×医療×食 事業シナジー戦略始動

新体制になってからの約2年、健康・美容分野で選ばれる「総合ヘルスケア企業」を目指し、大胆なM&Aを推進してきた同社。今年度からは新たなフェーズに進み、「安全・品質・健康」というキーワードを軸に、M&Aを通じた事業シナジー戦略を本格化させていく。その中核を担うのが、医療・福祉領域を



冷凍宅食でTOC事業本格化 自衛隊・防衛省職員へも提供

ミライフ参画によって全国規模の医療ネットワークを確立できたことは、今後のTOC事業成長においても大きなアドバンテージとなる。ウェルネス・メディカルコスメ商材と、医療・福祉分野に強みを持つ企業の顧客基盤・営業力を組み合わせることで、30代後半以上の健康志向層へのダイレクトリーチが可能に。加えて、医療・福祉施設を通じた新たな販路創出や定期利用する顧客層への継続的なプロモーション効果も得られる。そこにさらなる相乗効果をもたらすのが、「食」の提供である。

新たに検討中の「TOC向けワンストップ宅食サービス『dish』」では、EC構築からメニュー開発、生産、流通、顧客管理までを一貫貫で提供。ACA Next が長年培ってきた学校・病

院給食に関する知見に、栄養士監修のメニュー設計や医療法に準拠した調理工程といったメディカル現場で裏付けされた信頼性を掛け合わせて、高付加価値な冷凍宅食サービスを展開していく。「すでにオープンニングサイトは完成し、セキュリティ審査の段階に入った。メディカルコスメの顧客基盤に加え、昨年12月に締結された防衛省との契約を通じて自衛隊・防衛省職員への提供も予定。マーケティング費用を大幅に抑えながら、ターゲット層に効率良くリーチしていく」。TOB・TOC双方での事業ポートフォリオ構築によって市場シェアが急速に広がるとともに、リスク分散も見込まれる。中長期的な収益基盤の安定化にも直結する。

グローバル展開も加速 国策追い風に成長回帰

来年初創業70周年を迎える歴史と、石垣食品のネームバリューも同社の強さの源泉だ。「ウェルディッシュが扱う製品なら安心できる」という感覚が卸売店や小売店に深く根付いているため、新商品開発後の市場導入スピードが極めて速い。また国内はもちろん、近年はグローバル展開にも意欲的で、26年3月には中国食品販売企業と独占販売契約を締結。すでに主力商品の「金色麦茶」等が総合スーパーやコンビニに並んでいて、今後も加速度的に導入が進む見通しだ。巨大市場である中国における認知度向上と販路拡大は、中長期的な事業成長の基盤構築に貢献するだろう。

前述の2社が連結されることで、26年8月期業績は売上高100億円、営業利益3億1000万円、経常利益2億7000万円を予想。ガバナンス関連部門の内製化による財務改善も期待できる。また、株主にしても再発防止策の打ち出しや投資家へのスモールミーティング、

企業DATA



株式会社
ウェルディッシュ

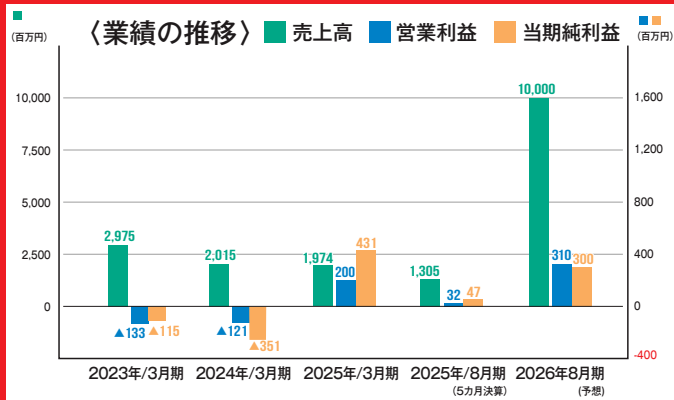
東京都中央区
八重洲2-1-1
YANMAR
TOKYO5F



現代表取締役社長野曽原氏(右)と小松取締役(左)

DATA

注:データは2026年6月12日時点



株価 **188 円**

配当利回り **2.13%**
(今期予想)

POINT

26年8月期第2四半期(中間期)は既存・新規事業ともに堅調な成長を見せた一方、内部統制強化のための外部コンサル費用や監査準備費用の一時的な増加等が影響し、売上高16億4000万円、営業利益は400万円で着地。ただし年次決算はM&Aによる連結取込で売上高100億円、営業利益3億1000万円、経常利益2億7000万円、EBITDA (Non-GAAP) 9億円を見込む(連結営業利益は27%上方修正)。保有期間・株式数に応じて自社商品やクオカードを贈呈しているが、今後は配当重視に舵を切る方針。M&Aに伴う発行株式数増加を受け、現中計3期目にかけて自社株買いも検討している。26年8月期の年間配当は4円を予定。